

# artful\_saffron\_005\_God\_is\_in\_the\_details

2023年10月の「現状修復活動」の近接撮影で、  
分かったことがあります。

もしかしたら、今まで殆どの方が気づかなかった  
「サフラン酒の罎絵の魅力」かも知れません。

。

鏝絵が完成して98年後に初の『現状修復』が、2023年10/25より数週間、東京文化財研究所の専門の先生(前川佳文氏)が中心に、そしてイタリアからフレスコ画修復の専門家二人が来日され、三名が担当して行なわれ、鏝絵部分の一部は汚れ、ほこりも除去され、往時の色彩をとり戻しまして、鏝の冴えも一層感じられるようになりました。

(酉など、まるで別物と感じられるものも。)

軒下鉢巻部の葡萄唐草文様は、破損部も修復され、見事な風景になりました。

**前川佳文氏** (Yoshifumi Maekawa)

**国立文化財機構 東京文化財研究所**

**文化遺産国際協力センター 主任研究員**

**東京芸術大学准教授兼任**

**国内のみならず、イタリア、トルコ、エジプトなど  
海外の遺跡保存活動にも従事されている方で、  
専門は、遺跡修復。**

『現状修復』作業のための足場を取り外す前(11/18)に、仲間うちの身軽な人が、高性能のスマホで撮影しました。その貴重な画像を譲ってもらいましたが、まさに、衝撃。鋳で作られた細かな溝を埋めていた98年間のほこりが、邪魔していたのですね。

南面の西、兔の頭部の細密描写。驚きでした。  
離れてみるのだから、ここまで不要と思われる  
ところも、細部描写への圧巻のこだわりです。



鉢巻の龍のひげ、寅の眼も、きれいになりました。



今までも、美しいと  
思っていたんですが、  
青の色だけでなく、  
鏝の技も凄い。

鳳凰の翼が、  
このような微細な表  
現だったと、誰が知  
ってたでしょうか。

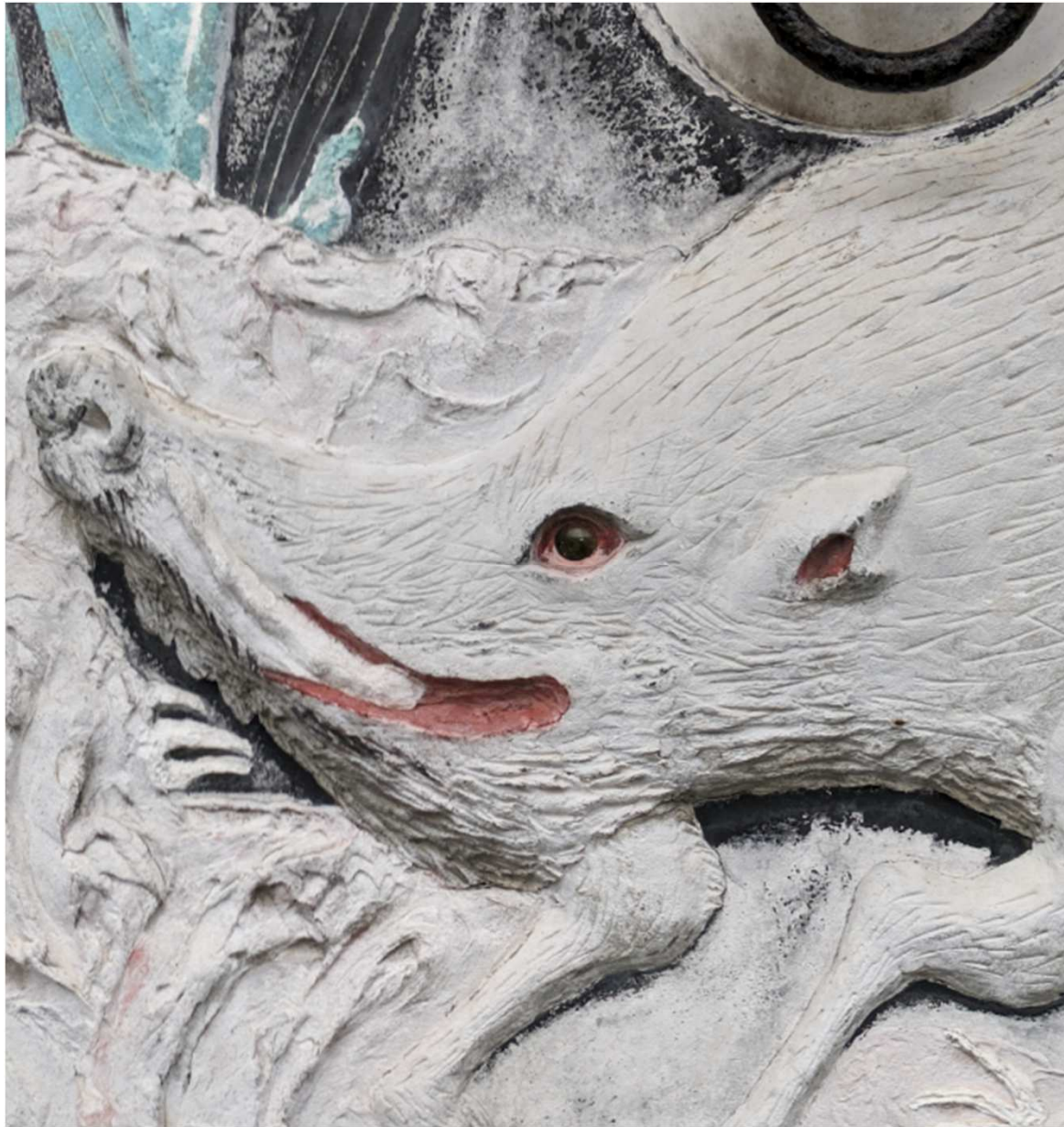




南面の酉は、今まで感じていた以上の、グラデーションの冴え。鰻だけで、ここまで。

いったい何色の薄茶の色漆喰を準備していたのでしょうか。

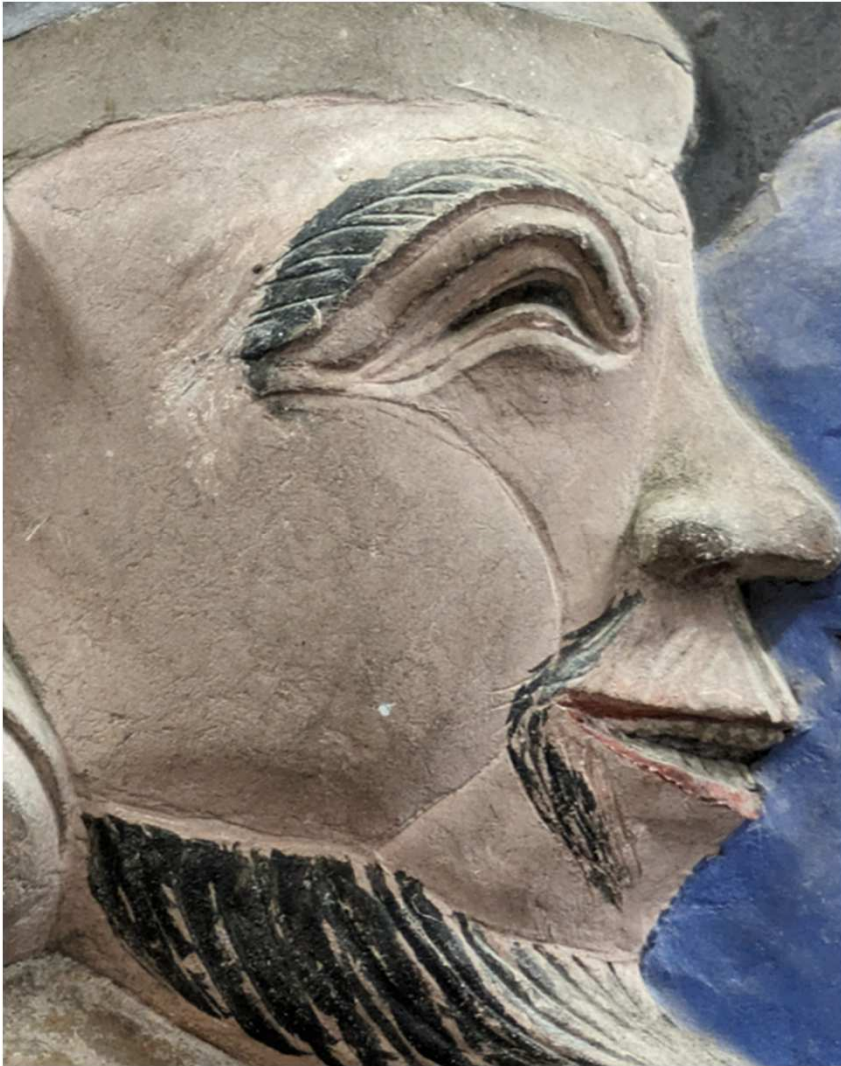




猪のゴワゴワ感、  
ここまでとは知りま  
せんでした。

眼の鋭さ。  
鼻先の触感も  
見事です。

屋内は、以前のままでしょうが、仁太郎の顔の、口の中の  
前歯、目の周りの皺も、詳細画像は以下の如し。



「細部(ディテール)へのこだわりが  
作品の本質を決める」。

細かなところまで気を配って作られたものこそ、  
良いもの、美しい作品になる。

まさに、「神は細部に宿る」ならぬ  
「美は細部に宿る」です。

God(Beauty) is in the details.







# みる、ということについて

第七回 近美「アートカフェ in 造形大」 2019/02/09  
「鑑賞の入口 ～“みる”から始める発見とワクワク～」  
講師、近美の宮下東子先生

見	みえる、目に映る
観	よくみる 観察する
鑑	見分ける 過去や他に照らして考える（判断） 比べるものとして何を選ぶかも、大事なこと

すみずみまで見ると、もっと面白い、  
ということ

普通の視力の解像度で見ている場合、  
詳細な情報をもって見ている場合、  
その質感から材質を解析する場合に、  
眼球から脳に伝わる情報量は明らかに違う。

アフリカやモンゴルでも、ある人は「視力5.0」だそうです。  
「視力1.0」の人は、「5m先にある1.5mm離れた2つの点を識別できる」。  
これが、「視力5.0」の人になると、  
「5m先にある0.3mm離れた2つの点を識別できる」と  
なります。ここは、『もっと視力を』、です。



『美』とは異なる見方ですが

サフラン酒の饅絵 いくつかヘンでは

- ①羊 ヤギに似ている、ネコではないか
- ②戌 ネコではないか
- ③午 並んだ戌と二つ、ヘタだなあ。

①、②については、実は、栃尾の貴渡神社  
(たかのり)に手本があったと思うのです。

長岡市栃堀の貴渡神社(たかのり)は、栃尾織物への貢献者、植村角左衛門貴渡(かくざえもん)翁を顕彰。

栃尾織物の基礎を築き、縞紬を広めた祭神貴渡翁を奉るために嘉永元年(1848)建てられた。社殿は小さいが、全体に雲蝶の彫刻。明治42年(1909)に村有。



ヒツジについては、もうひとつ。

属は異なるが、ヤギもヒツジもウシ科ヤギ亜科

角 ヤギには少し湾曲した2本のツノがあるが、ヒツジには渦を巻くツノがある。(無いものも多い。)これからサフラン酒のは「ヤギ」か。

顎髭 ヤギには顎髭があり、ヒツジには無い。(個体差が大きく、あご髭がないヤギもいるとのことで、これからサフラン酒のは「ヤギ」か。

尾 ヤギの尾は短くピンと跳ね上がるのに、ヒツジの尾は長く垂れ下がっている。これからサフラン酒のは「ヒツジ」で正しい。



# 中国のヒツジとヤギ

中国ではヒツジとヤギをもっと近い種類の感覚で捉えているようであり、漢字表記上でもヒツジは「羊」で、ヤギは「山羊」と書いて「山の羊」扱い。羊の一種として捉えているようで、干支のキャラクターにもヤギを用いる。

③の午は、並んだ戌と二つ、へただなあ。

わかりません。

時々私は、『お客様に、どう思いますか』、と問い、  
もしかしたら弟子に鰻仕事を任せたのでは、と  
話しています。





# 美術館で、絵を見るとき

自分もフィルタを通じてみている

いままでに見た知識

その画家の絵の体験

その画家の本で読んだ、見た知識と経験

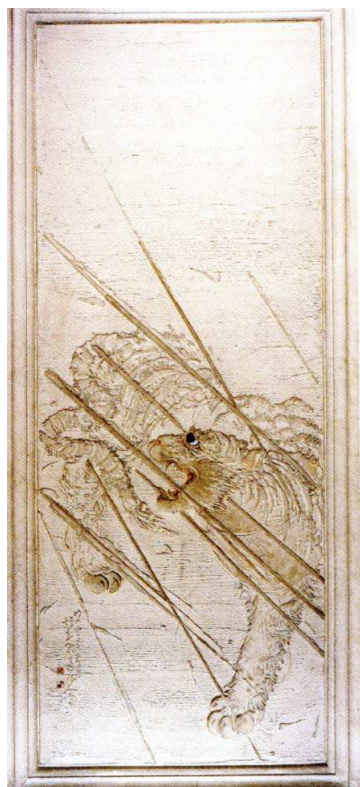
絵画全般の知識



実際、そうなのです。



入江長八 雨中の虎図（建築装飾 169\*75cm）



～ 一度知ってしまったら、特に注視しなくても、  
眼球から脳に伝わる情報量は明らかに違う筈。

鰻絵の祖、入江長八も、ときには、相当の  
こだわりです。

サフラン酒での印象も、「美は細部に宿る」です。  
～細かなところまで気を配って作られたものこそ、  
良いもの、美しい作品になる。

サフラン酒の、饅絵の四神四霊、十二支の  
配置、庭園の銘石、建物の銘木、設え、  
これらも、まさに、ひとつもおろそかにしない、  
「配慮、こだわりの美」だと感じます。

脳のなかの再構築の好例として、  
長岡 鋸山の雪形を見つける体験



# ブレーメンの音楽隊 ロバとイヌ、ネコ、オンドリ



一度、見分ける経験を経ると、翌シーズンに、容易に見つけることができるようになる。

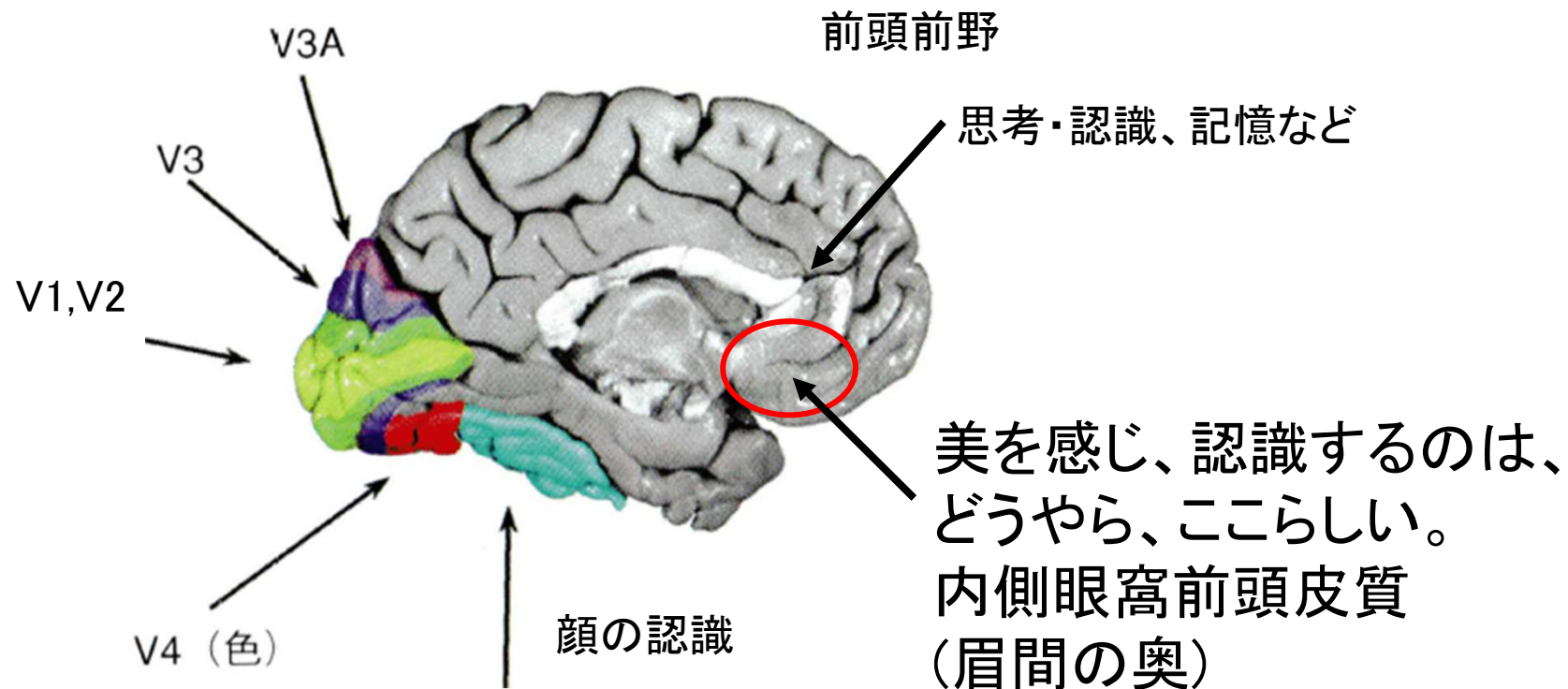


～ 見ているだけでなく、持っている知識をもとに、再構成しているのです。

網膜で見るのではなく、脳で見る。  
それも経験をもとにした新しい脳でみている。  
(脳の可塑性)

網膜 ～ 一次視覚野 ～ 高次視覚野 ～  
更に、前頭野で認識するに至る。





V1 ,V2, ……V4 ~ 視覚連合野

前頭前野

視覚処理のあと、頭で処理した美  
内側眼窩前頭皮質(眉間の奥)

セミール・ゼキ, "脳は美をいかに感じるか", 日本経済新聞社(2002) の図をもと、最新情報を追記

なんと、同じ部位をNHKのヒューマニエンスで出てきた「神経美学」の観点でも、注目していました。

～ 2023/03/30 “アート” 壮大な嘘が教えてくれるもの

『美を感じるときの脳の活動がわかってきた。前頭葉の下部，眉間の上あたりに位置する「内側眼窩前頭皮質」とよばれる部位の活動である。』

『道徳に見出す美も，顔などの外見的な美と同じく，内側眼窩前頭皮質の活動を生じさせることがわかっている』

すごいことです。

脳科学の進歩により、更に、不思議な働きが明らかになるかも知れません。